

Ⅱ B2分科会 よりよい新聞を作るために②  
レイアウトの技術を高めよう

## 読者を第一に考えた、 美しいレイアウト

2026年10月8日 第70回全道高等学校新聞研究大会(函館大会)  
講師 秋田隆之

## 読者を引きつける レイアウトの原則

### よい紙面は、深く考えられた 「目的」から生まれる。

- 生徒にどんなことを伝えたい? → イメージをはっきり持つ。
- 何を伝えたい? → 結果・価値・変化・方法・美しさ
- なぜ伝えたい? → 共感・楽しみ・正しさ・怒り・願い・働きかけ
- 目的によって、同じ出来事を扱っても、レイアウトは変わる。

よい紙面は、深く考えられた  
「目的」から生まれる。

- 3月の卒業式号を例に
- 誰に向けて、どんなイメージを?
- ①全生徒に向けて、卒業担任の声を。
- ②卒業生に、エールを。

啓成高校新聞  
201号

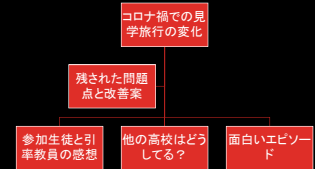
よい紙面は、深く考えられた  
「目的」から生まれる。

- 4月の入学式号を例に
- 誰に向けて、どんなイメージを?
- ①全生徒に向け、年間行事紹介を。
- ②新入生に向け、歓迎の気持ちを。



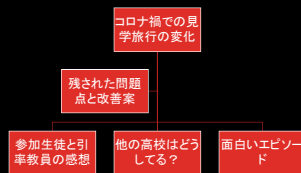
## レイアウトのプロセス①

- ・〈1〉図解→箱と矢印で記事を図解し、情報の階層構造をつかんでおく。



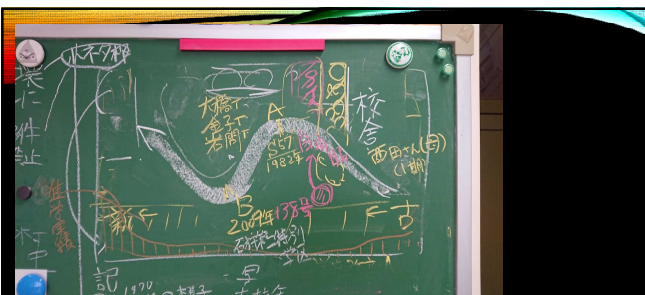
## レイアウトのプロセス①

- ・〈1〉図解→難しく考えず、記事の幹と枝葉をはっきりさせるといい。(記事の価値判断)



## レイアウトのプロセス②

- ・〈2〉ラフ→手書きで大雑把にレイアウトを書いてみる。手書きだからこそ、色や書体に惑わされることなく、内容の整理と理解に役立つ。



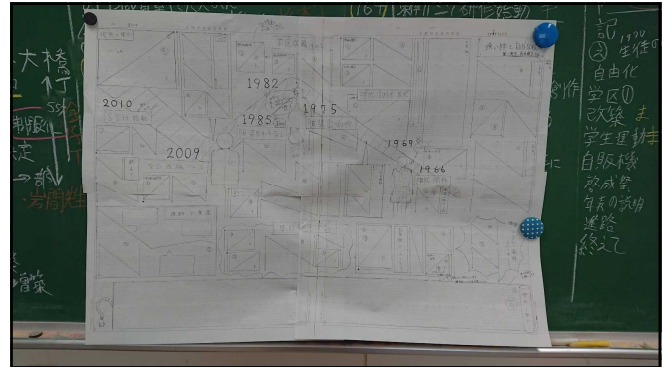
ラフ.....レイアウトを手書きで大雑把に書いてみる

## レイアウトのプロセス③

- ・〈3〉表現の方向性→かっちりか? にぎやかか? シンプルか? みっちりか?
- ・〈4〉構造の方向性→記事のまとめ方、配列の仕方を、目的と記事の内容を計算して考える。

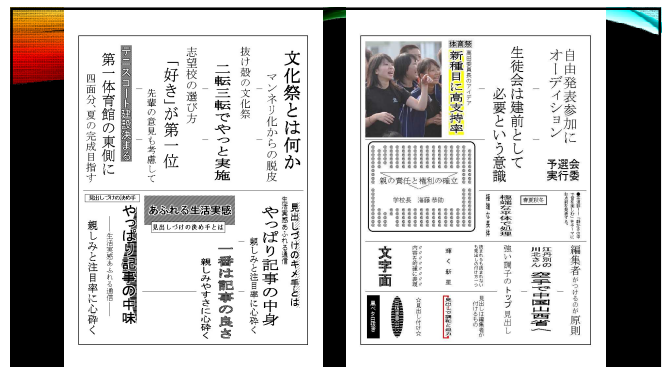
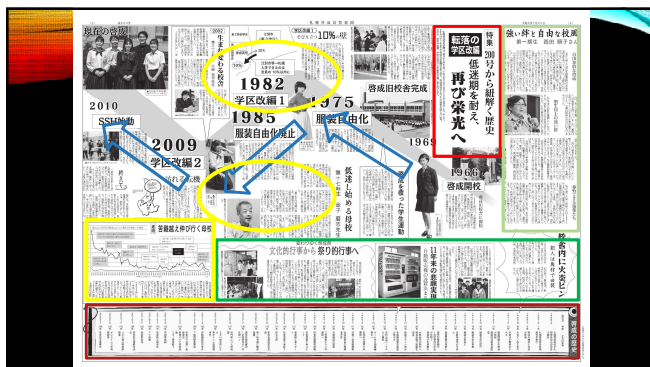
## レイアウトのプロセス③の例

- ・〈3〉表現の方向性→ダイナミックに流れを表現する
- ・〈4〉構造の方向性→蛇行するラインの上下で学校の歴史の浮沈を表現し、特に本校の低迷期の原因を明示する。



## レイアウトのプロセス④

- ・〈5〉骨格を作る→大見出し・小見出し・リード・写真・コラム・積み記事・囲み記事の配置を考え、構造を作る。
- ・〈6〉キャラを立たせる→あれこれ飾り立てるのがデザインではない。文字の揃え方・書体・字間行間・罫線・約物で個性を作る。



## レイアウトのプロセス⑤

- ・〈7〉足し算と引き算→ここまできて、それでも過不足があれば、飾りを足す。または、飾りを引く。見出しの地紋・飾り罫・色・背景等
- ・〈8〉ブラッシュアップ→細部の完成度を上げる。全体を眺める引いた目線と、細部を観察する寄りの目線。



## 編集者の七つ道具①

- ・〈1〉ダイジ度天秤(意味の優先付け)  
→全てを伝えようとすると、逆に何も伝わらない。「何が大事か？」を考えて優先順位を付け、取捨選択と強調をする。

## 編集者の七つ道具②-1

- ・〈2〉スポットライト(見た目の優先付け)  
→主役が脇役に埋もれず、離れてみても浮き上がって見えているか？ だめなら色々な方法でスポットライトを当てる。

## 編集者の七つ道具②-2

- ・〈2〉スポットライト(見た目の優先付け)
- ・①色のライト(必要最低限の使用が鍵)
- ・②地のライト(背景となる地紋の効果)
- ・③サイズのライト(目立たせたい要素を一番大きくする)



## 編集者の七つ道具②-3

- ・〈2〉スポットライト(見た目の優先付け)
- ・④余白のライト(大まかに眺めてもわかるくらいの余白の差をつくる。)
- ・⑤揃えないライト(まっすぐには斜めを、整列にはズレを。秩序を作ってから、あえて乱すという方法。)



## 編集者の七つ道具③-1

- ・〈3〉擬人化力
- ・①書体を声色に、組み方を話し方に例えてみる。(字間と行間は話すスピード、行の長さは話すリズム。新聞の基本は軽快・テキパキ・スピード感。)

## 編集者の七つ道具③-2

- ・〈3〉擬人化力
- ・②配置を人々に例えてみる。
- ・きっちり配列→安定感
- ・位置を揃えない→ヌケ感
- ・要素にメリハリを付ける→主役と脇役がハッキリする
- ・要素をわざと詰め込む→ごちゃ混ぜ感

## 編集者の七つ道具③-3

- ・〈3〉擬人化力
- ・③あしらい(装飾の配置)をモデルに例えてみる。
- ・服装や髪型でスタイルを作るように、書体・色・ライン・アイコン・テクスチャ等を使ってデザインもスタイリングしよう。

## 編集者の七つ道具③-3

- ・〈3〉擬人化力
- ・例えば、仕切りやカコミの罫線
- ・シンプルな直線でも、0.1mmの差で個性が変わる。
- ・飾り罫の個性をじっくり味わってみると、個性の強さに驚く。

## 編集者の七つ道具④

- ・〈4〉連想力
- ・レイアウトは伝えたい内容やテーマから自然に導かれていくのが理想。
- ・まずはテーマについてじっくり考え、連想される言葉やモノをたくさん出してみる。イメージの世界にひたるうちにレイアウトの方向性が見えてくる。

## 編集者の七つ道具⑤

- ・〈5〉翻訳機
- ・言語表現を非言語表現に置き換えてみる。
- ・写真・シンボル・地図・アイコン・ロゴ・表組み・記号・路線図等。レイアウトの目的に合わせてバランスを調整する。

## 編集者の七つ道具⑥

- ・〈6〉虫めがね
- ・最初は粗く見て大枠を固めるが、最後は細かく見る。
- ・神は細部に宿る。細部を疎かにしては全体の美しさは得られない。

## 編集者の七つ道具⑥

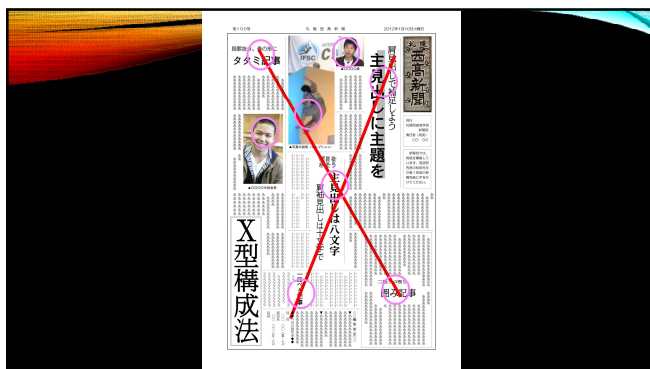
- ・〈6〉虫めがね
- ・細部の調整……たとえば、
- ・例：一文字だけの最終行は避ける。
- ・例：二桁の算用数字は縦中横回転し、等幅半角字形にする。

## 編集者の七つ道具⑦

- ・〈7〉愛
- ・①内容への愛
- ・型に内容をはめるのではなく、内容からレイアウトを生む。

## 編集者の七つ道具⑦

- ・〈7〉愛
- ・②届ける相手への愛
- ・届けたい人の興味や関心を想像し、それに寄り添うレイアウトを考える。



令和8年度 全道高等学校新聞研究大会  
Ⅱ B2分科会 講師 秋田隆之

## 紙面を縦に切れ

...レイアウトの基本技術習得

右の新聞を読んで、どこに問題があるか、指摘してください。何箇所指摘してもかまいません。



- ①写真や見出しが直列し、塊のように見える。
- ②記事の流れがわかりにくく、間違っ読そうになる。
- ③大きな写真が最下部にあり、紙面のバランスがおかしい。



紙面を縦に切るようにして整理してみよう。トップ記事からの縦の流れを中心に、左右を囲み記事や畳記事、寄せ記事でまとめてみると、右の例のようなレイアウト(割り付け)に変化する。



紙面を縦に切るようにして整理してみよう。トップ記事からの縦の流れを中心に、左右を囲み記事や畳記事、寄せ記事でまとめてみると、右の例のようなレイアウト(割り付け)に変化する。



#### レイアウトの手順

- ①記事の優先順位を考え、大まかな配置を決める。
- ②紙面を縦に整理する。
- ③見出しや写真の配置を考える。直列や並列をできるだけ避ける。X型に配列すると良い。
- ④上を重たく、下を軽く。
- ⑤真ん中に見出しや写真を配置すると、紙面が締まる。



#### ②紙面を縦に整理する。



- ③見出しや写真の配置を考える。直列や並列をできるだけ避ける。X型に配列すると良い。
- ④上を重たく、下を軽く。



#### 縦見出しと仕切り野線の使いこなし

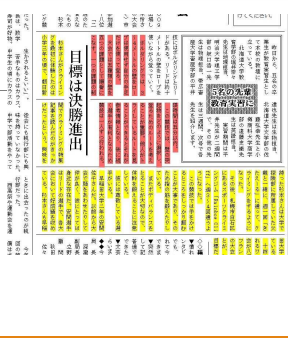
流し記事の中間に中見出しを挿入したり、二つ目の記事を繋げたりするときの基本技。使い方を覚えると、とても便利。



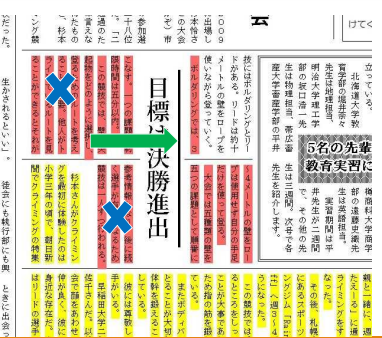
流し記事の場合、見出しや仕切り罫線にぶつかると、記事の流れは右下に移動する。

その性質を利用すると、レイアウトを変化させることができる。

例えば、中見出しをもっと右に移動させたい場合は...



単純に見出しを右にずらすと、当然、レイアウトが壊れてしまう。



単純に見出しを右にずらすと、当然、レイアウトが壊れてしまう

そこで、仕切り罫線を一段下に伸ばして赤の記事を右下に流してやる。

位置を調整すれば上手くはまる罫線を一段伸ばした分、記事本文を1行削らねばならない点に注意。




右の「ワル高新聞」を改良しなさい。



紙面を組むための第1段階

- ①記事の重要度を順位づける。
- ②紙面を縦に切りつつ、重要度を基準に配置する。
- ③写真も仮に置いてみる。



### 紙面を組むための 第2段階

- ①トップ記事を流し込んでみる。
- ②リード文を忘れないように。
- ③見出しも仮に入れてみる。  
**縦見出しを基本に考えよう。**



### 紙面を組むための第3段階

- ①紙面にインパクトがほしいので、バスケ部の写真を大きく扱ってみる。見出しは写真にかぶせてみた。
- ②囲み記事や置記事にとりあえず記事を流し込み、仮の見出しを入れてみる。
- ③X型に見出しや写真を配置するとよい。



### 紙面を組むための 第4段階

- ①囲み記事や置記事の段罫線を抜く。
- ②囲み記事や置記事は中央に見出しを置くことができるので、位置を調整する。
- ③囲み記事の枠となる罫線は、段罫線や全体の枠線より、一文字分内側に引く。



### 紙面を組むための 第5段階

- 最後に装飾的な細部を丁寧に仕上げていく。
- ①紙面全体の見出しのバランスを見直し、できるだけ**全ての見出しのフォントを別なものにする。明朝体とゴシック体を交互に使うのが基本。**



### 紙面を組むための 第5段階

- ②見出しに**地紋**を付けたり、**色**を付けたりする。ただし、意味もなく飾り立てるのは逆効果。**罫線の太さや種類**も繊細に使い分ける。  
常に**全体のバランス**を考える。



### 紙面を組むための 第5段階

- ③**リード文**は、記事本文との違いがはっきり分かるように、**上下の文字数を減らしたり、フォントを記事本文より目立つものにしたり、上下2～3段に渡って縦長に配置**したりする。

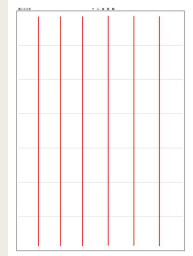


# 箱組紙面を作ろう

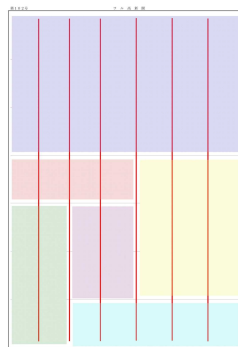
令和8年度 全道高等学校新聞研究大会 II B2分科会  
講師 秋田隆之  
2026年10月8日

## 箱組紙面を作ってみよう

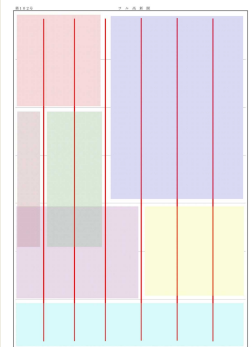
- **グリッドシステム**を試そう。
- 紙面に3～8本、縦線を引く。
- 格子（グリッド）ができる。
- 格子を規準に、様々な箱の組み合わせを考えてみよう。



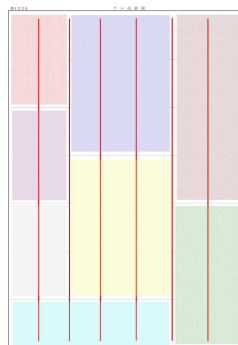
- 大きさも形も、出来るだけ変化を付けよう。
- 見出しや写真の位置はいったん忘れて、四角の組み合わせを楽しもう。



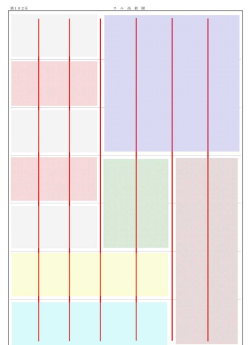
- 大きさも形も、出来るだけ変化を付けよう。
- 見出しや写真の位置はいったん忘れて、四角の組み合わせを楽しもう。
- 四角が一部重なってもかまわない。処理方法は後で考える。



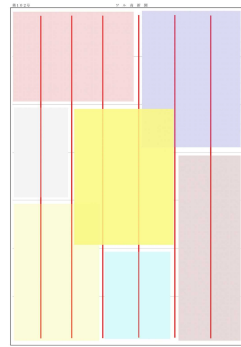
- 大きな記事を真ん中に置いて、両脇に小さな記事や補足情報を置いても面白いだろう。



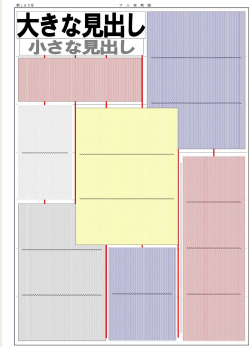
- 右上から順に大きな記事を並べ、左に小さな記事・同種類の記事を五つ寄せてみた。



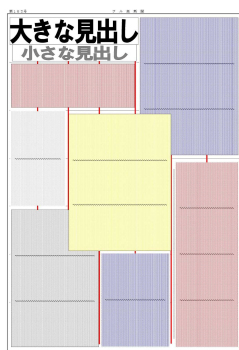
- 真ん中に一番強調したい記事を持ってきた例。
- 右上と左下の隅の重なりもデザインのうち。



- 紙面全体の見出しを入れてみた。
- 真ん中、右上、左下左上の囲み記事に囲み野線を入れた。
- 囲み記事の中に段野線は入れない。(右図では段を示すために波線を入れている。)



- 紙面全体の見出しを入れ、真ん中、右上、左下、左上の囲み記事に囲み野線を入れた。
- 左中の記事はまわりを囲まれており、野線で囲う必要が無い。
- 右下と中下の記事は一本の仕切り野線で成立する。



- 紙面全体の見出しを入れ、真ん中、右上、左下、左上の囲み記事に囲み野線を入れた。★
- 左中の記事はまわりを囲まれており、野線で囲う必要が無い。
- 右下と中下の記事は一本の仕切り野線で成立する。囲みは不要。

